

刊行予定 毎月2冊配本 (※刊行順は前後する可能性があります)

第1期 黄金時代編

半世紀にわたって連載された『ピーナッツ』は、時代とともに作品自体も成長してきました。本全集は、現在、日本でもっとも親しまれている絵柄でチャーリー・ブラウンたちが活躍する時代から刊行が始まります。全10巻(1971~90年)。本邦初訳作品も多数収録。その人気も世界的なものとなった1970年代の『ピーナッツ』は、まさに脂の乗りきった黄金時代。60年代後半に初登場したスヌービーの親友ウッドストックやペーパーマント、パティたちもレギュラーとして縦横に活躍しはじめます。



1978年2月8日



1973年5月8日

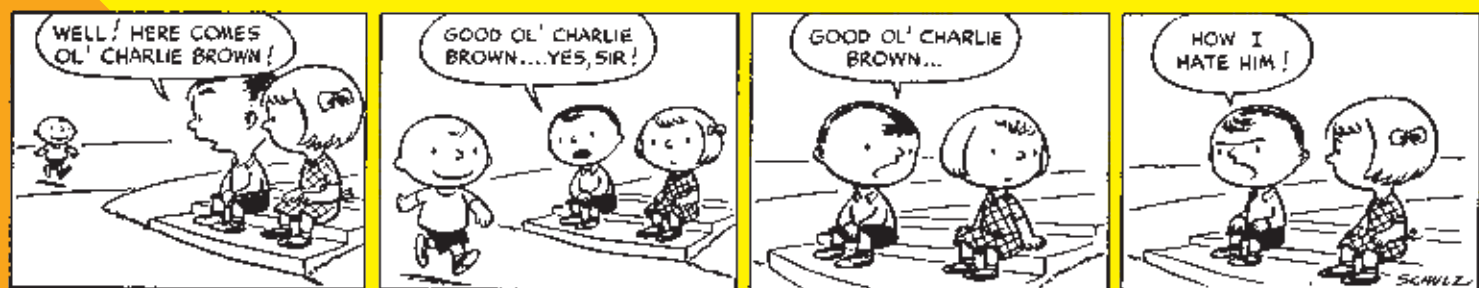
- 2020年4月 第1巻 スヌービー 1950~1952
- 第4巻 スヌービー 1957~1958
- 2020年5月 第5巻 スヌービー 1959~1960
- 第6巻 スヌービー 1961~1962
- 2020年6月 第7巻 スヌービー 1963~1964
- 第8巻 スヌービー 1965~1966
- 2020年7月 第2巻 スヌービー 1953~1954
- 第3巻 スヌービー 1955~1956
- 2020年8月 第5巻 スヌービー 1967~1968
- 第6巻 スヌービー 1969~1970

第2期 ヴィンテージ編



初期20年間を取めた全10巻(1950~70年)。アメリカ本国でも初出以降一度も再録されることなかった貴重作品を数多く収録します。スヌービーは連載第3回(50年10月4日)に初登場。このときはまだ、どこにでもいる普通の犬でした。1950年代には、天才音楽少年シュローダー、ガミガミ屋ルーシー、毛布を持った哲学者ライナス、チャーリー・ブラウンの妹サリーと、おなじみの仲間もほぼほ出そろいます。次第にスヌービーが2本脚で歩き、踊り、大活躍を繰り広げるようになって、『ピーナッツ』の人気も大爆発。60年代には『タイム』誌の表紙を飾り、テレビアニメーションが高視聴率を獲得、フロドウェイ・ミュージカルが記録的ヒット、NASAの宇宙船アポロ10号の司令船が「チャーリー・ブラウン」、月面着陸機が「スヌービー」と名づけられるなど、アメリカ文化の象徴的存在とまで言われるようになりました。

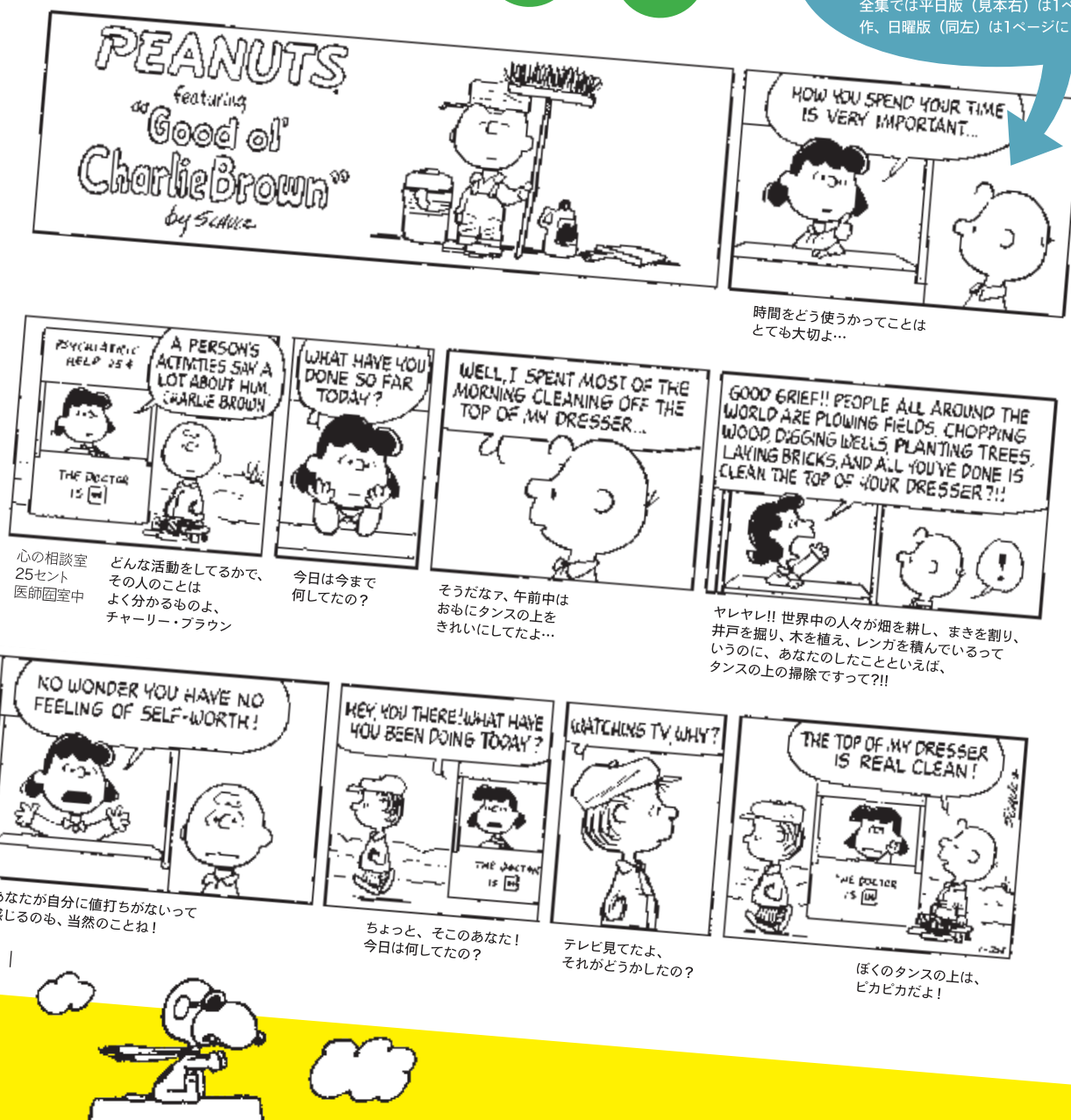
1950年10月2日/連載第1回



第3期 完結編

連載最後の10年間を取めた全5巻(1991~2000年)。第25巻には、『ピーナッツ』の前身的作品『Lil' Folks』を収録。1990年代は、チャーリー・ブラウンと野球や赤い毛の女の子などの関係も新展開を迎え、物語は最後まで穏やかに成長を続けます。最後まで創作意欲の衰えることなかったシュルツですが、病に冒され、1999年12月に引退を表明。2000年2月12日にこの世を去ります。その翌日の2月13日に、生前に描き上げていた最終回が発表されました。

ページ見本



『ピーナッツ』には、月曜から土曜までの紙面に掲載された4コマ漫画の「平日版」(1988年3月より、3コマ標準のスタイルに変更)と、日曜日に掲載された10コマ前後の「日曜版」の2種類があります。本全集では平日版(見本右)は1ページに3作、日曜版(同左)は1ページに1作掲載。

1. 全作品を初出順に収録!

1950年10月2日から2000年2月13日まで全米各紙に毎日連載された『ピーナッツ』全1万7897作品を初出順に収録します。このうち約2000作品は、これまで単行本に収録されたことがありませんでした。1巻あたり、連載2年間分を取ります。

本全集の特徴

2. 谷川俊太郎による個人全訳!

日本では長年にわたって谷川俊太郎による名訳で親しまれてきた『ピーナッツ』。多数の新訳とともに、既訳も全面的に見直しがされています。

3. 英語学習にも最適!

魅力的なセリフが満載で、生きた英語の教科書としても活用されてきた『ピーナッツ』は、小学校高学年以上の英語学習にも最適です。

4. アメリカ文化の最良の教科書!

子どもたちの日常から、野球やテレビなど大衆文化、人権・宗教問題までも描かれた『ピーナッツ』の50年は、まさにアメリカ文化の記録です。

バイリンガル仕様で英語学習にも!

掲載順に忠実に収録! 日付のサインも!

プロフィール
チャールズ・M・シュルツ
Charles Monroe Schulz

1922年、アメリカ・ミネソタ州生まれ。漫画家。1950年より『ピーナッツ』の連載を開始。史上もっとも多くの読者を持つ新聞漫画となる。2000年逝去。享年77。

谷川俊太郎
たにかわ・しゅんたろう

1931年、東京生まれ。詩人。1952年、第一詩集『二十億光年の孤独』を刊行。詩作のほか、翻訳、絵本、エッセイ、作詞など幅広く活躍。

